



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 325  
April  
2020

## トピックス

### お知らせ

¶ 一般財団法人アジア防災センター理事長からのご挨拶

¶ 投稿募集 “Applying Satellite Remote Sensing to Disaster Management (災害管理への衛星リモートセンシングの適用)”

### 国際会議への参加

第12回センチネルアジア・ステアリングコミッティ (インド・ハイデラバード)

### ADRC客員研究員レポート

スタティップ・デジャシリ (タイ)

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2020

## ●お知らせ

### 一般財団法人アジア防災センター理事長からのご挨拶

アジア防災センター (ADRC) は1998年4月に発足してから22年目を迎えます。当センターはこれまで様々な防災活動をアジア地域及び日本において実施してきました。当センターは31のメンバー国及び5つのアドバイザーから構成される政府間機関で、これらの国々とともに防災に関する知見等を共有するとともに、他の国際機関等と連携しながら様々な活動を行ってきました。これまで当センターは、一般財団法人都市防災研究所の附置機関でしたが、これまでの活動を礎に、より幅広く独自性のある活動を展開していくため昨年法人格を取得し、2020年4月から一般財団法人アジア防災センターとして生まれ変わります。この度、その初代理事長に就任いたしますが、当センターの発足時から4年間歴任した所長としての経験を活かしながら、アジア地域の防災・減災に貢献して参ります。



一般財団法人アジア防災センター  
理事長 小川 雄二郎

### 投稿募集 “Applying Satellite Remote Sensing to Disaster Management (災害管理への衛星リモートセンシングの適用)”

ケンブリッジスカラーズは、ゲスト編集者によるコレクションへの章単位での投稿を募集しています。現在150以上のタイトルがありますが、特に、災害管理関係者からの “Applying Satellite Remote Sensing to Disaster Management” への投稿を歓迎します。ADRCは、センチネルアジアを推進する立場から衛星リモートセンシングの防災への適用事例を募集する取り組みを支援しています。

本書は、“An Introduction to Applying Satellite Remote Sensing to Disaster Management (災害管理への衛星リモートセンシングの適用入門)” (<https://www.cambridgescholars.com/an-introduction-to-applying-satellite-remote-sensing-to-disaster-management>) の続編として、災害管理に衛星リモートセンシングを適用する事例研究 (ケーススタディ) 及び/または全体論的研究 (ホリスティックスタディ) を提供するものです。各国/地域の各組織/機関/大学による衛星リモートセンシングがどのように作用し (人的要因を含む)、また災害管理のどの分野に適用されるかについて詳述します。

この本の編集者・加来一哉氏 (ADRCの客員研究員) は、以前は宇宙航空

## 続き

研究開発機構（JAXA）とセンチネルアジアプロジェクトで、衛星リモートセンシングとWeb-GIS技術を適用してアジア太平洋地域の災害管理をサポートしてきました。

詳細は以下を参照ください。

<http://www.cambridgescholars.com/t/EditedCollectionsPhysical>

## ●国際会議への参加

### 第12回センチネルアジア・ステアリングコミッティ（インド・ハイデラバード）

2020年1月21日及び22日、インドのハイデラバードにあるインド宇宙研究機関（ISRO）の国家リモートセンシングセンター（NRSC）とJAXAの共催で開催された12回センチネルアジアのステアリングコミッティにADRC所長鈴木が共同議長として参加しました。主な議論は以下の通りとなっています。

共同議長である元アジア工科大学院地理情報センター所長ラル氏本年末をもって共同議長を退く一方、鈴木は引き続き共同議長を務めることが公表されました。また、空席となる共同議長については鈴木より宇宙コミュニティ、情報解析コミュニティから1名ずつ選出されることが望ましいと発言を行いました。今後は共同議長選出のプロセスも含めた議論をウェブでのステアリングコミッティで議論されることを確認しました。

企業との連携については、タイのシラチャでのステアリングコミッティ以来議論されてきましたが、今回論点が明確になった点として、データサーバが企業に帰属する場合に宇宙機関のデータポリシーに抵触することから、ESRIによるArcGISの無償提供の受け入れは極めて困難ではないかということで、一旦議論を終了しました。

韓国航空宇宙研究所（KARI）のセンチネルアジアのメンバーシップについて議論が及びました。事務局からは文書にてKARIに対し継続的な参加の意思の有無を確認すべきとの提案があったところ、鈴木よりその文章を出す前に非公式に共同議長よりKARIを訪問しセンチネルアジアの活動に対するKARIの問題点について確認すべきであると提案し、4月以降共同議長による韓国訪問の機会を探ることとなりました。

今回のステアリングコミッティの共催者であるISROによるスペシャルセッションにおいて、ISROが推進している宇宙技術の防災利用について、災害監視など幅広い取り組みが紹介されました。



セッションでの議論



ステアリングコミッティ集合写真

**●ADRC客員研究員レポート****スタティップ・デジャシリ (タイ)**

私はタイの内務省防災局（DDPM）計画・政策アナリストのスタティップ・デジャシリと申します。タイのKasetsart大学において、自然資源管理の学士、そして森林生物学で修士号を取得しました。

私の所属する戦略・財務部において、国家防災計画2015とDDPM戦略計画2017-2022の実施を担当し、また防災、持続可能な開発目標（SDGs）、気候変動適応（CCA）に関わる関係者と国及び地方レベルで連携し、防災と関係するSDGsの目標1、11及び13のロードマップを推進しています。

防災は、中央及び地方政府、NGO、国連機関、ボランティアグループ、民間企業、研究機関、そして、もっとも重要なアクターである住民を含む様々な関係者間での連携に基づく活動であり、総合的な防災に必要な不可欠な計画策定、サービス、情報やリソースを効果的に利用するために協力して活動しなければなりません。日本は、自然災害が多い国であるからこそ、様々な関係者による強いガバナンスに基づいた災害からの強いレジリエンスをもっています。そのことから、参画、オーナーシップ、持続性、そして一人も取り残さないことを目標とした全ての防災サイクルにおける防災関係者の役割、特に地方レベルにおける関係者の役

割について研究したいと思っています。ADRCの滞在期間中、地方防災計画、ハザードマップ、都市計画、教育、気象観測、ジェンダーの視点、官民連携など多分野にわたり学ぶと共に、多くの被災地も訪問しました。ADRCの客員研究員プログラムは、私の防災に関する視野を広げるとともに、タイで生かせそうな知識、日本の防災ガバナンスシステムの優良事例、関係者参画に関する戦略を提供してくれました。

最後に、日本で研究する貴重な機会を提供してくれた日本政府、タイ政府に感謝するとともに、温かく受け入れてくれたADRCの職員にも感謝したいと思います。ありがとうございました。

**問い合わせ・配信申し込み**

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は  
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。